

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 赤根 真央

論 文 題 目

Anterior interosseous nerve and posterior interosseous nerve
involvement in neuralgic amyotrophy

(神経痛性筋萎縮症における前骨間神経、後骨間神経の関与)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

石黒直樹 

名古屋大学教授

委員

亀井 讓 


名古屋大学教授

委員

日比英晴 

名古屋大学教授

指導教授

平 田 仁 

論文審査の結果の要旨

神経痛性筋萎縮症の一部と考えられている前骨間神経麻痺、後骨間神経麻痺を有する患者の臨床的特徴をとらえた。麻痺に先行して疼痛がある例が神経痛性筋萎縮症全体より少ないことが分かった。神経剥離術が行われた症例では神経に器質的病変を認めた。神経上膜、周膜の病理学的検査で線維化とリンパ球の浸潤が認められ、病態に炎症があることが示唆された。保存的療法で改善しない場合は神経剥離術を施行した方が筋力回復がよい傾向にあった。また、神経剥離術は患者立脚型評価のスコアも改善させることが示された。以上より保存的療法で改善しない例では神経の器質的病変が関与しており、神経剥離術が有用である可能性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 関節運動する肘周辺に病変が多く認められること、前骨間神経と後骨間神経はともに肘周辺で分岐し筋間を走行すること、特徴的な神経のくびれが起こるには機械的刺激が必要であることから、障害される神経は機械的ストレスに対する脆弱性があると考えられる。
2. 過去の報告にも認められるように病理所見で血管周囲にリンパ管浸潤や線維化を認めることから、炎症により疼痛が惹起されると考えられる。
3. Post-surgical inflammatory neuropathy という概念があり、手術による炎症性ストレス、遺伝的素因、無症候性の炎症やニューロパチーや機械的ストレスが複雑に関係して引き起こすと考えられている。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	赤根真央
試験担当者	主査 石黒直樹 (印) 滝井 譲 (印) 日比 英晴 (印) 指導教授 平田 仁 (印)			

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 特定の神経が障害される原因について
2. 麻痺に先行して疼痛が起こる機序について
3. 手術後に起こる原因について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、手の外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。